

主の洗礼

2013.1.13

ルカ 3・15-16,21-22

新年を迎え、新たな決意をもって歩みはじめた私たちのこの一年の歩みを方向づけるかのように、今日の典礼は主イエスの公の活動の開始を告げる主の洗礼の祝日を祝っています。年が明けた最初の日曜日の先週の主の公現の祭日に続いて、今日の日曜日、教会の典礼暦は毎年主の洗礼の祝日を祝います。クリスマスから今日の主の洗礼の祝日までが教会の典礼暦では降誕節の季節です。迎えた2013年の私たちの新たな歩みの中に、インマヌエルとなられて私たちのこの世界に来てくださった神の子イエス・キリストがともにいてくださるといふクリスマスによってもたらされた信仰の大きな喜びのうちに、私たちはこの新しい年に向かって歩みはじめています。私たちのカトリック信者としてのこの新たな歩みは、先週の主の公現の祭日の福音に語られていた、東の国の占星術の博士たちが見た星の光に導かれる旅です。その光のもとに私たちを招いている、私たちが信仰によって見出すことが出来た私たちのこの世界に来てくださった神の子、私たち全ての者の救い主イエス・キリストのもとを目指す旅です。私たちのこの一年の新たな歩みがそのような旅路となることを願ってこの「信仰年」の一年の歩みをはじめたいと思います。

クリスマスの夜、私たちの救い主として、私たちのもとに、私たちとともに生きるために来てくださった神の子イエス・キリストは、今日祝うその洗礼によって父なる神から与えられた使命を果たすための活動を開始されます。

そのイエスの活動に先立って、ヨルダン川のほとりのユダの荒れ野に現れて、神の裁きの日がまじかに迫っていることを宣べ伝える洗礼者ヨハネのもとにパレスチナ一帯の町や村から大勢の人々が押し寄せるように集って来たと聖書は語り始めます。マタイ、マルコ、ルカの三つの福音書は、「荒れ野に叫ぶ者の声がする」という旧約の預言者のことばを引用して、洗礼者ヨハネの活動がどのような意味を持つものであったかを述べていますが、洗礼者ヨハネのもとに集って来た人々の心にもこの旧約の預言者のことばが響いていたにちがいません。人々は洗礼者ヨハネの姿とそのメッセージのうちに、神が何か新しい決定的な出来事を開始されようとしておられると感じ取っていたはずです。そうでなければ、家のことも仕事も捨ておいて、あれほど大勢の人々がユダの荒れ野の洗礼者のもとに押し寄せることはなかったことでしょう。人々は何か新

しいことを求めていたのです。そして自分たちが求める、今の状況を決定的に変えて真に新しいことを開始することが出来るのは神以外にはないと、人々は彼らを取り巻く状況の中で感じ取っていたのです。

そのような人々を前にして洗礼者ヨハネが語ったのは、旧約の預言者たちの伝統を受け継ぐ神からのメッセージです。神の裁きの前に身を置いて悔い改めることです。神がもたらそうとしておられる救いのみわざを受け入れ、神が開始しようとしている新しい世界に生きるためには、まずこのような神のみ前における徹底的な自己変革が求められるのです。洗礼者のことばは人々の心に響きました。人々は自分たちの生き方が変わらなければ、神に呼び求めても神は応えてくださらず、神がもたらしてくださる真に新しいことは何一つこの世界には起こらないことに気づき始めていたのです。だから彼らはこぞって、ヨルダン川の水に身を沈め、洗礼者ヨハネが勧めた悔い改めのしるしとしての洗礼を受けたのでした。

そのような人々の群れにまじって、イエスも洗礼をお受けになられたと今日の福音は語っています。これが今日私たちが祝う主の洗礼の出来事です。イエスは神の子であり罪も汚れもないお方であるので、本当は、悔い改めも、まして洗礼者ヨハネから洗礼を受ける必要もなかったと言う人がいます。イエスは、私たちに謙遜の模範を示すために、洗礼をお受けになられたのだというような説明がされたりもします。けれども、イエスは私たちに手本を示すためだけに、このように洗礼をお受けになられたのでしょうか。

クリスマスの夜、ベツレヘムの飼い葉桶の中に寝かされていた神の子は、その姿をもって、生まれる場所を選ぶことが出来ない私たちと同じ人の子とされたこと示しておられたのではなかったのでしょうか。イエスは神としてのその愛のゆえに私たちと同じ人間となって、この世界に来てくださったお方です。人間である私たちが神に求めることを、私たちの一員として、私たちと一体となって神に願い求めるためにイエスは私たちの世界に来てくださり、そのようにして、私たちのこの世界に真に新しい神の救いをもたらしてくださるのです。このように理解するなら、ユダの荒れ野の洗礼者ヨハネのもとに群がるようにしてヨハネのことばに耳を傾けていた人々の心のうちにあった思いは、イエスの思いでもあったはずです。そしてそれは、ここに集う私たちの思いでもあることを、主の洗礼を記念する今日のミサの中であらためて確かめ合いたいと思います。

人々が求めていたこと、そしてイエスが人々の中の一人となって求めておられることは、神によってもたらされる真に新しい世界です。今の世界の中で

こを見回しても、私たちには気の遠くなるほどに解決不可能と思われる状況に風穴を開け、新たな将来の可能性を開くことが出来るのは、真に新しい世界をもたらすことの出来る神の力によることです。そのためには、私たち自身の生き方が変えられなければならないのです。洗礼者ヨハネのメッセージはそのことを私たちに求めているのです。そして、そのようなことが可能になるのは、私たち自身の悔い改めによるだけではなく、そもそもそのような私たちの悔い改めが可能になるためには、彼の後から来られるお方、神のもとから遣わされるイエス・キリストの活動を待たなければならないと洗礼者ヨハネはその生涯をかけたメッセージを通して告げているのです。

「わたしはあなたたちに水で洗礼を授けるが、私よりも優れた方が来られる。・・・その方は、聖霊と火であなたたちに洗礼をお授けになる。」これが今日の福音に取り上げられている洗礼者ヨハネのメッセージです。洗礼の水は確かに私たちの罪の汚れを洗い清めます。けれども、人々に水で洗礼を授けていたヨハネは、イエスによってもたらされる聖霊と火による洗礼を予告したのです。聖霊と火による洗礼とは、今日の福音の枠内で理解しようとするなら、まずは、洗礼を受けて祈っておられたイエスの上に降った聖霊について考えてみなければなりません。イエスの上にそれまで閉ざされていた天が開けたのです。天におられる神とイエスがそこに来てくださった私たちが生きるこの地上を遮っていた、罪の闇が打ち払われて天がこの地上に向かって開かれたのです。そして神のいのちそのものである聖霊は鳩のように目に見える姿でイエスの上に降ったのです。イエスの洗礼においてそのようなことが実現したのです。ここで、聖霊は何故鳩の姿でイエスの上に降ったと語られているのでしょうか。鳩はノアの洪水の物語を思い起こさせます。神の怒りの裁きによってそれまでのこの地上の全てのものは洪水によって滅ぼされたのです。ノアが箱舟から放った鳩は嘴にオリーブの葉をくわえて戻ってきたのでした。こうして鳩は、この地上を覆った洪水の大惨劇が止んで、神とこの世界に生きる人との間に回復された新たないのちの交わり、真の平和のシンボルとなったのです。私たちの中で、私たちと同じ一人の人間となって私たちに先立って洗礼をお受けになったイエスの上に降った聖霊はそのような鳩の姿で現れた聖霊です。土から造られたアダムが神のいのちの霊を吹き入れられて生きる者となったように、イエスの上に降った聖霊の羽音によって、私たちのこの世界は神の新たな創造のみわざを経験することになったのです。イエスを神の子と信じる信仰によって洗礼を受けた私たちはそのよう洗礼を体験したのです。それまでの自分の生き方の全てが聖霊の愛の火に焼き尽くされ、精錬されて一切不純物が取り除かれた金

や銀のように、神の倉に納められにふさわしい、神に喜んでいただけるものだけを求める生き方への転換を私たちも洗礼によって経験したのです。洗礼によって開始されたイエスが歩まれた福音の道を私たちも歩み通す決意を新たに
して、主の洗礼を記念するこのミサをともにおささげし、私たちがいただいている洗礼の意味を真に悟ることの出来る恵みを願い求めたいと思います。

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高